

News letter

株式会社日立ソリューションズ <http://www.hitachi-solutions.co.jp/>

今月号のキーワード マイクロソフトのクラウドのことは、日立ソリューションズの酒井に聞け！

特集

日立ソリューションズのマイクロソフト関連ビジネスへの取り組みについてご紹介

日立ソリューションズは、2002年開始のソリューション協業制度[コンサルティングパートナー]などを経て、マイクロソフトのソリューションパートナーとして協業ビジネスを推進し、Microsoft製品や技術に関するお客様のご要望に応えてきました。今回は、早くからマイクロソフト関連ビジネスに着手し、日本国内でも数人しかいない「Microsoft Regional Director」に認定されている、技術開発本部 生産技術センタ 生産技術開発グループ 技師 酒井 達明より日立ソリューションズのマイクロソフト関連ビジネスへの取り組みについて紹介します。



酒井 達明

技術開発本部
生産技術センタ
生産技術開発グループ 技師

マイクロソフトプラットフォームにおける
開発技術の先行評価および標準化支
援担当

マイクロソフト関連ビジネスの歴史

私がマイクロソフト株式会社様(現:日本マイクロソフト株式会社/以下、マイクロソフト)と技術的な交流を持つようになったのは、日立ソリューションズの前身の一つである日立システムエンジニアリングに在籍していた1994年の時のことでした。私は、当時株式会社日立製作所(以下、日立)の一員としてマイクロソフトの業務に携わっていました。

当時、マイクロソフトから見ると「日立はハードウェアメーカー」という印象が強く、ビジネスパートナーという認識が低かったと思います。そんな中、日立の顧客の中でWindowsをベースとしたシステム構築のニーズが高まり、日立グループとして、ソリューションに必要な技術を蓄積し、展開する必要がありました。

そこで、マイクロソフトとのパイプを築くため、個人的に交流のあったマイクロソフトの技術者やエバンジェリスト(*1)との技術交流を行いました。

(*1): 新技術や設計手法などを社内・社外に広める担当者

その後、マイクロソフト側にも変化が起き、Back Office

製品と呼ばれた企業向けのサーバー製品群が続々と発表され、これらの製品を活用してソリューションを提供することで、システムインテグレーターに対しても「パートナー」という認識が広がってきました。

このマイクロソフトの変化にいち早く反応したのが、日立ソフトウェアエンジニアリング(以下、日立ソフト)と日立システムアンドサービス(以下、日立システム)の前身の一つである日立中部ソフトウェアでした。日立ソフトは、1997年に「バックオフィスソリューションセンタ」を東京都港区に、日立中部ソフトウェアは「Windows 2000 Plaza」というショールームを名古屋の中心部に開設し、マイクロソフトからも注目されるパートナーに成長しました。

また、日立システムはマイクロソフトコンサルティングパートナーとしてマイクロソフト認定コンサルタントによる上質なコンサルティングサービスを提供してきたことで、日立システムメンバーがマイクロソフトの最優秀認定コンサルタントの栄誉を手にしたこともあります。

同時に、サーバーソリューションだけでなく「.NET」を中心としたアプリケーション開発に対しても強みを示したいという思いがあり、日立システムは「.NET」にいち早く着目し、開発方法論「COMMONDATION」や「.NET」を拡張するフレームワーク製品などを業界に先駆けて発表してきました。

マイクロソフト関連ビジネスの最新動向

日立ソリューションズのマイクロソフト関連ビジネスの柱は大きく2つのソリューションに分けられます。

1つは、お客様のITシステムの基盤となるインフラを提供するソリューション。そして、もう1つは、最新の製品や開発技術を活用したお客様のITシステムを構築するソリューションです。日立ソリューションズは、Slerとして、多種多様な製品や技術に対応していく必要性があり、中でもマイクロソフトが提供するWindowsのWebシステムを構築する上で、一般に普及したアプリケーションプラットフォーム「.NET」やアプリケーション開発環境「Visual Studio」は、2つのソリューションを提供していく上で、欠かすことのできない魅力的な技術でした。

クラウドコンピューティング(以下、クラウド)が提唱されるようになり、「.NET」の資産をそのまま活用できる「Windows Azure」は、さらに魅力的な技術でした。「Windows Azure」が発表された当時は、まだクラウドの黎明期でした。しかし、「Salesforce.com」や「Amazon Web Services」など先行するサービスプロバイダーと比べ、この時点ですでに「Windows Azure」は「後発」と言われていました。国内に目を向けるとクラウドはまだまだパズワードの域を出ておらず、「.NET」や「Visual Studio」をはじめとした開発環境の充実、従来のマイクロソフト製品との高い親和性から、「Windows Azure」が普及してきました。従来の「.NET」ベースで構築したアプリケーションは、わずかな変更のみで「Windows Azure」へ配置して稼働することが可能であり、「.NET」開発に対する多くのノウハウを持っている日立ソリューションズにとって、「Windows Azure」は追い風となりました。

その結果として、宝印刷株式会社様の導入事例は、オンプレミスとパブリッククラウドに「Windows Azure」を利用して、併用した国内初の導入事例となりました。

この実績が、2010年のMicrosoft Worldwide Partner Award受賞につながり、国内においてもマイクロソフトパートナー・オブ・ザ・イヤーのWindows Azureプラットフォームパートナーアワード部門で受賞し、「Windows Azureなら日立ソリューションズ」と言われるようになりました。

日立ソリューションズは、宝印刷株式会社様など「Windows Azure」のシステム構築を通じて得られたノウハウをベースに、「Windows Azure」導入の計画からシステムの導入支援を通じ、ハイブリッドインテグレーションを実現するためのワンストップソリューションである「Windows Azure Platform導入ソリューション」を提供しています。

エバンジェリストとしてのこれまでの取り組み

私は、2003年頃から、これまでの「C++」などのプログラミング技術を生かし、マイクロソフトのプラットフォームに関する技術を習得してきました。日立ソリューションズのシステム開発基盤のベースとなる「COMMONDATION」の開発にも携わってきました。また、「.NET」の重要性を社内外にアピールし、マイクロソフトと共同の顧客向けセミナーを幾度も開催し、「日立ソリューションズはマイクロソフトプラットフォームに強い」というイメージをお客様に印象づけることができました。このような活動を通じて、2004年には、Microsoft MVPアワード(C#カテゴリ)を受賞しました。このMVPアワード受賞で、私の周囲の環境が大きく変化しました。私自身雑誌などのメディアに登場することが多くなり、業界の先端を行く多くのエンジニアとのコネクションも構築されていきました。また、マイクロソフトの開催する大規模カンファレンスなどで講師を務めるなど、活躍の場が大きく広がりました。マイクロソフトをはじめとした関係各所の力添えなしでは、現在のような活動はできませんでしたし、こうした活動に対して日立ソリューションズが



図.宝印刷株式会社様「Windows Azure」を利用したシステム構成図

理解を示したことも大きな原動力でした。

その後、現在までMicrosoft MVPアワードを毎年連続して受賞しており、2011年には、Windows Azure部門で受賞しました。また、2010年から、日本国内でも数人しか認定されていないというMicrosoft Regional Directorに認定され広く活動しています。

雑誌記事執筆や書籍執筆などでも多くの依頼をいただき、2009年に発売された「クラウド大全」(共著:日経BP社刊)には始まり、「Microsoftのクラウドコンピューティング Windows Azure入門」(共著:アスキーメディアワークス刊)や「Windows Azure」に関する数多くの記事を執筆してきました。こうした活動を通じて「日立ソリューションズの酒井はWindows Azureに詳しい」と言われるようになってきたのではないかと思います。

2009年当時の「Windows Azure」は、情報が錯綜し、正しく整理された情報が提供されていないという問題がありました。これは、まだプレビュー段階であった「Windows Azure」が細かなバージョンアップを繰り返したこと、また、アプリケーション開発の手法が頻繁に変更されたことが要因です。時間が経つにつれ、以前の情報が古く間違っただけのものになることから、私は正確で網羅的な情報を提供したいという思いがありました。

そんなとき、書籍執筆のお話をいただき、期を同じくして社内で宝印刷株式会社様のパイロットプロジェクトが立ち上がることを知りました。そこで、情報を整理し、プロジェクトメンバーに最新の情報を提供するという活動が始まり、その中で、プロジェクトメンバーが疑問に思うことが私の考えていたことと違うことも認識できました。こうして「開発者はどのような情報が欲しいのか?」ということ意識しながら情報を整理できたと実感しています。

大きく変更が繰り返された「Windows Azure」とその開発環境への対応の中で、役に立ったのがMicrosoft MVPという

これまでの関連リリース

- ・日立ソリューションズが「マイクロソフトパートナー・オブ・ザ・イヤー2010」を受賞 (2010年9月8日)
<http://www.hitachi-solutions.co.jp/company/press/news/system/2010/pr100908.html>
- ・日立ソリューションズが「Microsoft Worldwide Partner Award 2010」を受賞 (2010年6月24日)
<http://www.hitachi-solutions.co.jp/company/press/news/system/2010/pr100624.html>
- ・日立ソリューションズが「ハイブリッドインテグレーション」のメニュー体系を発表 (2010年3月1日)
<http://www.hitachi-solutions.co.jp/company/press/news/system/2010/pr100301.html>
- ・宝印刷が、日立ソリューションズの支援により上場企業の企業情報開示支援サービス基盤にマイクロソフトのクラウドコンピューティング プラットフォームを採用 (2010年2月22日)
<http://www.hitachi-solutions.co.jp/company/press/news/system/2010/pr100222.html>

ニュースリリースの内容は発表当時のものであるため、旧社名(株式会社日立システムアンドサービス)が記載されています。

立ち位置でした。マイクロソフト本社の開発チームと直接コンタクトをとることができ、「Windows Azure」に関する多くの疑問を解決することができました。

こうした経験を経て、2010年3月に日経BP社より「Windows Azureアプリケーション開発入門～作って感じるクラウドコンピューティング」を発売しました。「作って感じる～」というサブタイトルを付けたのは、開発者の皆様に実際に触って体感してもらいたいという思いからです。私自身プログラマーなので、何かを始めるときに「まず触ってみる」ということを重視しています。そこで、読者の方々にも「まずは触ってみましょう」というメッセージを発信したかったのです。

そして昨年、改訂版である「Windows Azureアプリケーション開発入門第2版」が発売され、現在に至っています。

プロフィール
酒井 達明 Tatsuaki Sakai



日立ソリューションズにおいてマイクロソフトプラットフォームにおける開発技術の先行評価および標準化支援を担当。

現在は「Windows Azure」を適用したシステム開発の支援も担当している。

MVP受賞歴
2004年 Visual C#
2005～2009年 Solutions Architect
2010年 Visual C#
2011年～ Windows Azure



著書:

- ・クラウド大全第2版 サービス詳細から基盤技術まで(共著)
出版社:日経BP社 ISBN-13:978-4822284275
- ・Microsoftのクラウドコンピューティング Windows Azure入門(共著)
出版社:アスキー・メディアワークス ISBN-13:978-4048682527
- ・Windows Azureアプリケーション開発入門(MSDNプログラミングシリーズ)
出版社:日経BP社 ISBN-13:978-4822294007



最近のニュースリリース

当社の発信したニュースリリースの詳細は、当社ホームページの以下URL
<http://www.hitachi-solutions.co.jp/company/press/> でご覧いただけます。

国土交通省のAIS港湾手続き支援システムが稼働
日立ソリューションズのクラウド基盤「SecureOnline」を利用

ポータブルで、テーブルに広げて使える指タッチセンサー「StarBoard Link DR」を発売
大判図面のレビューや防災計画において、紙を使わず電子データによる業務遂行を促進

産業医向け「従業員健康管理クラウドサービス」を提供開始
産業医の管理業務を軽減し、情報漏えいリスクも低減

TOPICS

里山・緑地保全活動として、田んぼの稲刈りを実施(あきる野市横沢入里山保全地区)

あきる野市横沢入里山保全地区で10月8日、日立ソリューションズ社員が6月に田植えをした田んぼの稲刈りを行いました。日立ソリューションズは、2006年より東京都が指定する48の里山・緑地保全地域の内、あきる野市と八王子市で現地のNPOと共に間伐、萌芽更新、植樹や草刈りなどの保全活動を行っています。その活動場所の一つ、あきる野市横沢入里山保全地区はレッドデータブックに載っているトウキョウサンショウウオやホトケドジョウなど希少生物の貴重な生息地となっています。NPO法人横沢入タンボの会のご指導の下、生息地を守るように棚田の再生活動を行ったところ、数ヵ月後には田んぼにホタルが戻り、トンボが飛び交うようになりました。年々ホタルの数は増えています。

今回は、15名の社員が、午前9時～午後3時までの間、日立ソリューションズの棚田3枚とそのほか4枚の田んぼの稲刈りを行いました。当日は晴天に恵まれ、参加者は涼しく穏やかな秋空の下、長い地下足袋を履いたメンバーが刈り取り作業を主に行い、その他のメンバーは稲を束ねたり、はさがけをしたりとそれぞれが役割を分担し、収穫作業を行いました。次の作業として11月には脱穀を行う予定です。

今後も、日立ソリューションズは、継続的に、里山や緑地の保全活動に取り組みます。



田んぼの稲刈りの様子

商号	株式会社 日立ソリューションズ
本社事務所	本社 〒140-0002 東京都品川区東品川四丁目12番7号 本社別館 〒108-8250 東京都港区港南二丁目18番1号 Tel:03-5780-2111(大代表)
設立年月日	1970年9月21日
従業員数	13,409名(2011年9月30日現在、連結)
事業内容	業務コンサルティング、ITコンサルティング、システム設計、保守、システム運用、システム開発のライフサイクルを一括してサポートするワンストップサービスを提供
主要製品	機密情報漏洩防止ソリューション「秘文」、就業管理システム「リシテア」、指静脈認証システム「静紋」、Juniper Networks製品、電子ドキュメントータルソリューション「活文」、インタラクティブ電子ボード「StarBoard」、エンタープライズ型地理情報システム「GeoMation」、統制IT基盤提供サービス「SecureOnline」、JP1ソリューションサービス 他
認証取得	ISO9001、ISO14001、ISO27001
主な子会社および 関連会社	日立ビジネスソリューション(株)、(株)日立ソリューションズバリュー、(株)日立ソリューションズデザイン (株)日立ソリューションズサービス、(株)アイネス、(株)ビジネスブレイン太田昭和、(株)DACS

* 記載されている会社および製品名は各社の商標または登録商標です。